

## 概要

- 日本最大級のカルスト台地であり国定公園や特別天然記念物である「秋吉台」
- 未来に残したい草原の里100選**や**日本の地質百選**にも選ばれており、その**地下水系**はラムサール条約にも登録されています。
- この秋吉台で行われる山焼きは、春を呼ぶ早春の風物詩です。
- 昔は、伸びた雑草を燃やして新芽を育て、主に肥料や飼料のための採草目的で、集落単位で火入れを行っていました。
- 大正14年に陸軍が演習場の山火事防止を目的に、一斉に火入れを始めたのが、山焼きの始まりです。
- 現在でも、秋吉台の自然と美しい景観を維持するため、毎年早春に山焼きが行われます。
- 火が放たれるバチバチという音とともに**約1,138ha**もの大草原が炎と煙とに包まれる様子は圧巻です。
- 炎が過ぎ去った後は黒い台地に姿を変え、初夏には一面の新緑で覆われます。
- この山焼きにより、草原景観の維持、森林化防止、貴重な植物や昆虫等の生息環境保全、倒木等による石灰岩の棄損を防止しています。



## 当日の流れ

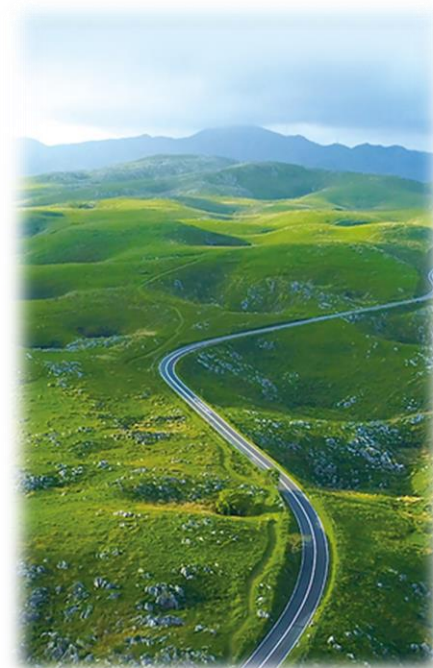
当日は、秋吉台エリア全域に**1000人**を超える人々が展開し、朝10時に**一斉に火入れを開始**します。全国に野焼きを行う地域は数あれど、一度の火入れで**全てのエリアを実行**する希少な取組となります。



## 安全管理

山焼きは、秋吉台の景観維持のために欠かせない取組である一方、火を取り扱う危険な取組でもあります。

当日は秋吉台上に本部を構え、地域の伝統芸能である**カルスト草炎太鼓**が響く中、山焼きの様子を見守ります。



## 事前準備

秋吉台山焼きは、当日の取組の他に11月から「火道切」という総延長**約20kmの防火帯**の設置作業を行います。「火道切」は地域の方々や学校、県内企業の協力も得ながら、秋吉台全周を囲うように行います。